

# 交流及び共同学習の実施と評価に関する研究

## ～「いっしょに楽しむ」交流をめざして～

永島 諭史 (福岡市立福岡中央特別支援学校 教諭)

宮崎 小百合 (福岡市立若久特別支援学校 教諭)

佐藤 清美 (福岡市立屋形原特別支援学校 教諭)

本研究は、新学習指導要領において、「交流及び共同学習」を計画的・組織的に行うことが位置づけられたことを受け、よりよい「交流及び共同学習」のあり方を追究するため、児童の実態をふまえ、個のニーズに合った学習内容を盛り込んだ学習活動を計画し、交流相手校と連携して授業実践を行い、評価表をもとにその成果を検証するものである。

### I 研究主題設定の理由

#### 1 社会的要請の視点から

○ 障がいや人種等による差別や偏見をなくし、それぞれの多様性を受け入れる理念が「インクルージョン」であり、多くの国でこの理念をかかげ、「インクルーシブな社会」の実現に向けた取組が展開されている。今回の学習指導要領改訂の方向を示す中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」において、「家庭や地域の教育力の低下」が大きな課題とされている。答申は、「社会が豊かな時代を迎え、核家族化や都市化が進行し、社会そのものや人々のライフスタイルが変容してきていること」をあげている。そして、「家庭や地域の教育力の低下から、子どもの生活習慣の確立が不十分であり、親や教師以外の地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流が少なくなり、自然の中での体験が減少していること」を指摘している。この答申が意味するものは、現代社

会の大きな課題である。

○ 交流教育は、1960年代後半から始まり、約40年の積み重ねがあるが、近年の障がい者対策の充実からその意義が重視され、推進が求められるようになった。

#### 2 学校教育の視点から

○ 平成21年3月9日に文部科学省から、特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領が改訂された。今回の改訂における改善事項として、「交流及び共同学習」の名称が新たに使われるようになり、「計画的・組織的に取り組む」ことが明記された。学校の役割として、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が共に育ち学ぶ教育を受けることのできる環境整備を行うことが求められている。

○ 障がいの特性や取り巻く状況については、学習したり指導したりすることできる。しかしながら、障がいのある人への意識や態度、適切な対応

については、それぞれの段階や状況に応じて、必要なことを体験することで意識や行動を深化させていくものである。「交流及び共同学習」は、それぞれがそこに参加し、体験する中で、自分とは異なる他者に向き合い、自らのことや他者のことに対する意識や態度、行動に進化させる機会であると考えられる。

○ 近年、学校は多くの課題を抱え、時間をかけて丁寧に取り組む交流及び共同学習を計画することが難しくなっており、交流については、ただ体験することだけを重視する傾向が強くなっている。しかし交流及び共同学習のねらいは、障がいのある子どもにとっては子どもの経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育むことである。また障がいのない子どもにとっては子どもが幅広い体験を得て、視野を広げることにより、豊かな人間性を図ることと言える。それぞれにとって「お互いを、同じ社会に生きる人間として正しく理解し、共に助け合って支えあって生きていくことを学ぶ場」が交流及び共同学習である。そしてその成果を学級や学校の活動、学校を含めた地域社会作りに生かしていく必要がある。

## II 研究主題の意味

### 「交流及び共同学習」とは

「交流及び共同学習」は、特別支援学校と近隣の小・中学校等や児童生徒の居住する地域の小・中学校等で行われている。障がいのある子どもと障がいのない子どもが一緒に参加する活動は、相互のふれ合いを通して豊かな人間性をはぐくむことを目的とする「交流」の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする「共同学習」の側面があるものと考えられる。「交流および共同学習」とは、このように両方の側面が一体としてあることをより明確に表したものである。この二つの側面は分かちがたいものとして捉え、推進していく必要がある。「交流及び共同学習」

は、障がいのある子どもの自立と社会参加を促進するとともに、社会を構成する様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会となり、共生社会の形成に役立つものと言える。本研究では、特別支援学校に在籍する小学部の児童とその児童が居住する小学校の児童との「交流及び共同学習」を取り上げる。

### 「交流及び共同学習における評価」とは

授業時間内に行われる「交流および共同学習」については、在籍校の授業として位置づけられていることに十分留意し、教育課程上の位置づけ、指導の目標等を明確にし、適切な評価を行う必要がある。小・中学校等においては、「交流および共同学習」に位置付けている教科・領域のねらいに照らし合わせて評価を行う。特別支援学校の子どもについては、子どもの在籍校の授業として実施されるので、在籍校が教育活動としての適切な評価を行う必要がある。そのためには、事前に活動のねらいや評価項目、評価方法等について教師間で十分打合せをして、互いに理解を深めておくことが大切である。評価と改善を繰り返すことにより、「交流および共同学習」の目的・目標、内容がより明確になり、継続的・効果的な交流になっていくであろうと考える。

### 「いっしょに楽しむ交流」とは

様々な交流を通してふれあう中で、お互いのよさやがんばり、優しさを知り合いながら特別支援学校の児童生徒と交流校の児童生徒がいっしょに楽しむ交流である。

また、交流する中で、児童生徒が次回の交流を心待ちにし、活動を楽しみ、自分から関わろうとする子どもの姿を目指す交流である。

### Ⅲ 研究の目標

- 評価表を作成し活用することで、児童のニーズに合った継続的な交流及び共同学習を進める。
- 評価表を活用しながら、交流相手校との話し合いを進め、連携の取れた交流及び共同学習を進める。

### Ⅳ 研究の仮説

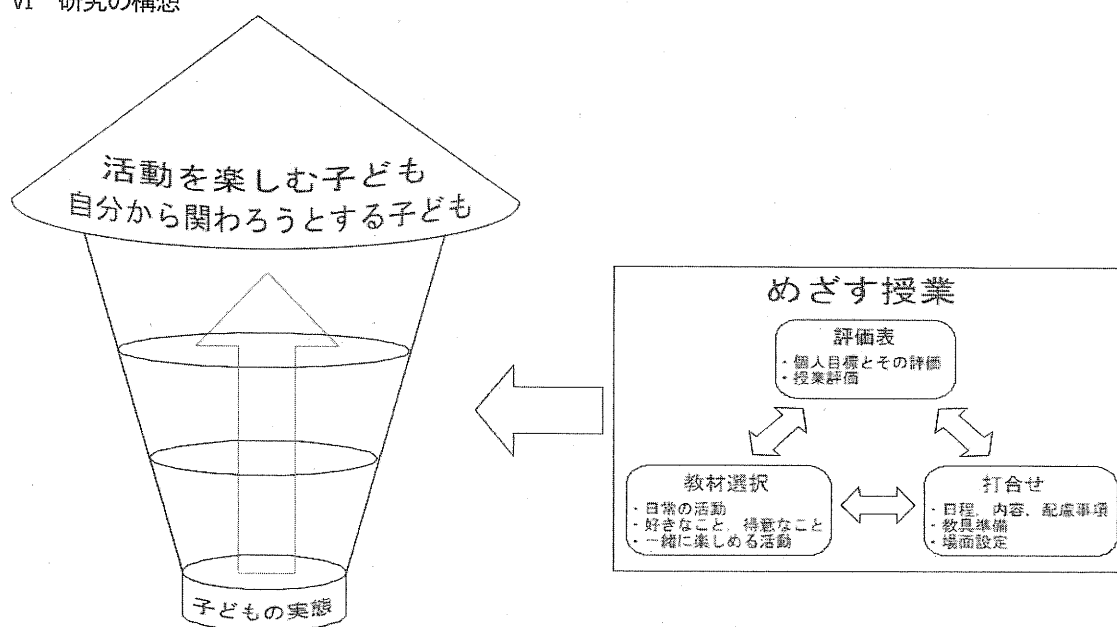
- 評価表をもとに、授業を工夫・改善してしければ、児童のニーズに合った継続的な交流及び共同学習になるであろう。
- 評価表をもとに、相手校との連携を密にし、協力し合って実践していけば、よりよい交流及び共同学習になるであろう。

### Ⅴ 研究の計画

| 月           | 主な研究事項                                                         |
|-------------|----------------------------------------------------------------|
| 4<br>5<br>8 | 研究の構想<br>・研究主題の決定<br>・研究目標と仮説の設定<br>・研究の構想図を作成する。<br>・年間計画書の作成 |

|    |                                              |
|----|----------------------------------------------|
| 9  | 交流校との打合せ<br>研究内容の検討<br>評価表の構想と検討<br>中間報告書の作成 |
| 10 | 中間報告会<br>検証授業の構想<br>検証授業の指導案作成<br>評価表の作成     |
| 11 | 交流検証授業実践<br>評価表記入                            |
| 12 | 実践のまとめ<br>研究報告書作成                            |
| 1  | 研究発表会の構想の検討、準備                               |
| 2  | 研究発表会リハーサル<br>研究発表会<br>研究の反省                 |

### Ⅵ 研究の構想



## VII 研究の実際

### 事例1

知的障がい特別支援学校 小学部3年生

交流 昼休み・清掃・特別活動 指導略案

| 居住地校交流(昼休み・清掃・特別活動)学習指導略案                    |                                                                             |                                                                                  |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
|                                              | T1 特別支援学校担任                                                                 | T2 交流校担任                                                                         |
| 1. 単元名                                       | 小学校の友達と仲よくなろう                                                               |                                                                                  |
| 2. 日 時                                       | 11月20日(金) 13:15~14:55                                                       |                                                                                  |
| 3. 場 所                                       | A小学校3年2組教室、運動場、第2音楽室                                                        |                                                                                  |
| 4. 目 標                                       | ○小学校の友達と一緒に活動することができる。<br>○活動の中で自分ができることをたくさん発揮することができる。                    |                                                                                  |
| 5. 展 開                                       |                                                                             |                                                                                  |
| 学習活動                                         | 活動内容                                                                        | 指導上の留意点・配慮事項                                                                     |
| 【昼休み】<br>① 児童の紹介<br>② 運動場へ移動<br>③ 助け鬼        | ○名前を呼ばれたら返事する。<br>○友達について行く。<br>○友達から選んだり、友達を追いかけたりする。                      | ○相手校に事前にプロフィールを送り、名前や得意なこと、苦手なことを知ってもらうようにする。<br>○安全に気をつけて、特に他の児童にぶつからないように配慮する。 |
| 【清掃】<br>④ 教室の清掃                              | ○いすを運ぶ。<br>○ぞうきんで床を拭く。<br>○片付けをする。                                          | ○軽いものを運ぶようにする。<br>○目隠ししているめくりカードを持参し、自分から清掃できるようにする。                             |
| 【特別活動】<br>「お楽しみ会」<br>⑤ はじめのあいさつ<br>⑥ パネルシアター | ○友達と一緒に整列する。<br>○パネルシアターを2つ見る。<br>「あきのかぼん」<br>「かきのかきん」                      | ○4号車グループに並ぶ。<br>○季節物のゆったりしたものと、正義の味方のお話の2つを用意する。<br>○全員が注目するように声かけをする。           |
| ⑦ じゃんけん列車                                    | ○音楽が止まったら、友達とじゃんけんをする。<br>○勝ったら友達と後ろにつながり、負けたら友達の後ろにつながらる。                  | ○じゃんけんがうまくできない時にはじゃんけんさいころを使うようにする。<br>○T2がピアノ伴奏をする。                             |
| ⑧ ダンス                                        | ○体育会で踊った「ドラえもん音頭」を踊る。<br>○教師と一緒に踊りを教える。<br>○みんなで踊る。                         | ○本児が慣れ親しんだ音楽を使う。<br>○小学校の児童が注目するように声かける。<br>○グループに入って踊るようにする。                    |
| ⑨ お話(5分)                                     | ○教師が本児の普段の生活で、頑張っていることを話す。<br>「あいさつ」「自分でできることは自分でする」「お仕事をがんばる」<br>○感想を発表する。 | ○写真を見目しながら話を聞くように声かける。                                                           |
| ⑩ 終わりのあいさつ                                   | ○友達とタッチしてお別れする。<br>○みんなで帰る。                                                 | ○「楽しかった」の一言を発表するようにする。<br>○たくさん友達の話をきくので、終わった後は手を洗うようにする。                        |

### (1)単元の内容・目標

本単元では、助け鬼、教室清掃、ダンスなどを通して、一緒に活動したりお互いに教え合ったりして、友達と仲よくなることをねらいとしている。

また、小学校の友達と一緒に活動すること、活動の中で自分の力をできるだけ発揮することを目標としている。

本年度はじめての交流なので、緊張して力を発揮しにくいことが予想される。そこで、本児が慣れ親しんだ活動をできるだけたくさん取り入れることで、見通しを持ちやすくし、緊張を和らげるように配慮した。

### (2)単元に関する児童の実態

- はじめての場面では、人見知りしたり怖がりすることもあるが、慣れると活動に積極的に参加できる。
- 発音は不明瞭なことが多いが、発語が増えてきた。
- 簡単な言葉の指示が分かる。
- 簡単な身体運動や模倣ができる。
- 休み時間は、中庭や機能訓練室で体を動かして遊ぶことが多い。

| 居住地校交流 評価表                                            |                                                                             |                                                                 |                                                         |                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                       |                                                                             | 3 年 組                                                           | 児童名( A )                                                | 担任( N )                                                                                                   |
| 交流校                                                   | A小学校 ○○先生                                                                   |                                                                 |                                                         |                                                                                                           |
| 日 時                                                   | 11月20日(金) 13:15～13:45 昼休み<br>13:50～14:05 清掃<br>14:10～14:55 5校時(特別活動「お楽しみ会」) |                                                                 |                                                         |                                                                                                           |
| 場 所                                                   | A小学校 運動場・3の2教室・第2音楽室                                                        |                                                                 |                                                         |                                                                                                           |
| 単元名                                                   | 「小学校の友達と仲よくなろう (お楽しみ会など)」                                                   |                                                                 |                                                         |                                                                                                           |
|                                                       | 学習の流れ                                                                       | 個人目標                                                            | 評価                                                      | 特記事項                                                                                                      |
| 昼休み                                                   | 助け鬼をしよう                                                                     | ・友達と一緒に遊ぶことができる。                                                | ◎                                                       | ・はじめは母親や担任から離れなかったが、5分くらいで友達と手をつなぐようになった。その後は、友達と手をつないで時間一杯活動できた。                                         |
| 清掃                                                    | 教室清掃                                                                        | ・友達と一緒に雑巾がけすることができる。                                            | ◎                                                       | ・友達が机の運び方や雑巾の絞り方を教えてくれた。雑巾がけは自分からすることができた。支援グッズを使わなくても活動できた。                                              |
| 5校時                                                   | おたのしみ会<br>・パネルシアター<br>・じゃんけん列車<br>・みんなで帰ろう                                  | ・友達と一緒に活動できる。<br>・友達とつながって動くことができる。<br>・友達の中に入って力を発揮して踊ることができる。 | ◎<br>◎<br>◎                                             | ・最後まで落ち着いてすべての活動できた。<br>・友達とつながって動くことができた。手を離すこともなかった。<br>・友達の前で教師と一緒に踊りを教えることができた。友達と一緒にフープを持って踊ることもできた。 |
| 評価基準：◎自分からできた、あるいは友達に促されるとできた。 ○先生から促されてできた。 △できなかった。 |                                                                             |                                                                 |                                                         |                                                                                                           |
| 指導評価                                                  |                                                                             |                                                                 | 特記事項                                                    |                                                                                                           |
| 個人目標は適切だったか。                                          |                                                                             | ◎                                                               | すべて◎なので適切だったといつてよい。次回は目標を少し高めに設定してもよい。                  |                                                                                                           |
| 教材教具は適切だったか。                                          |                                                                             | ◎                                                               | 自分の力を発揮して楽しんで活動できたので、適切だったといつてよい。                       |                                                                                                           |
| 支援は適切だったか。                                            |                                                                             | ◎                                                               | 小学校の児童にどう支援したらよいか伝えることで、本児が力を発揮しやすいように一緒に活動してくれたのでよかった。 |                                                                                                           |
| 評価基準：◎適していた。 ○継続する。 △内容の見直しが必要。                       |                                                                             |                                                                 |                                                         |                                                                                                           |

### (3)年間計画(年に1回)

2学期 11月20日(金) 昼休み・清掃・特別活動

### (4)事前の準備・活動の実際

#### ①事前の打合せ

夏休み：交流の日時設定

午後の時間、昼休み・清掃・5校時を通して交流することを決定

9月：内容設定

5校時を体育(ウイングサッカー)にすることが決定

10月：交流予定だったが学校行事の都合により延期

日時・内容再設定

5校時を「お楽しみ会」にすることを決定  
本児のプロフィールを作成・交流校の教室に掲示

11月：内容や役割分担の打合せ

T1を担当、T2を交流校の教師  
用具の依頼、ピアノ伴奏の依頼  
会場での模擬授業

#### ②交流の時間の工夫

今回の実践で最も工夫した点は、授業の前に昼休み・清掃でも交流する時間を作った点である。なぜならば、はじめての場面では人見知りをしたり怖がったりする実態があり、授業の前に少しでも友達と交流し慣れていれば、友達と一緒に活動する際に自分の力をより発揮しやすいのではと考えたからである。そこで、体を動かすことが好きなので昼休みに一緒に遊ぶ時間や、日常している清掃を友達と一緒にする時間を設定した。

#### ③交流の様子

##### ア 昼休み

目標：友達と一緒に遊ぶことができる。

クラス全員で遊ぶ日ということで、助け鬼をした。本児は、逃げるグループに入った。

はじめは母親や担任からなかなか離れようとし

なかった。そこで、担任と友達で片手ずつ手をつなぎ、移動しながらタイミングを計り、友達と手をつなぐのを交代するようにした。その後は、母親や担任と離れて友達と一緒に遊ぶことができた。

助け鬼では、6、7人グループになり、交代して手をつなぎながら運動場全体を歩いた。鬼が近づくと手をつないで一緒に走る様子も見られた。運動場ではボールが飛んできたり、人がぶつかってきたりする危険があり、はじめは担任がガードしていたが、担任の真似をして次第に友達がガードをしたり、危険なところを通らないようにしたりしていた。捕まることも友達を助けることもなかったが、終わって教室へ移動しているときに笑顔が見られた。

##### イ 教室清掃

目標：友達と一緒に雑巾がけすることができる。

クラスの役割分担により、雑巾がけをすることになった。雑巾がけは毎週しているので、慣れた活動である。

友達の1人が床を指さしてどこを拭いたらよいかを教えていて、本児がそれを理解し雑巾がけをする場面があった。また、友達が雑巾の絞り方を手を取って教えると、本児がそれに応えて雑巾を上手に絞ることもできた。後片づけでは、友達がバケツと一緒に運んだり、手を洗ったりするのを誘い、それに応じて一緒にする姿も見られた。

この場面では、お互いに日常していることを取り入れた中で、教える姿、それに応える姿を引き出せたことは、打合を密にし、本児が得意な場面を設定できたからだと思う。

##### ウ お楽しみ会

T1を担当、T2を相手校の教師で行った。

目標：○みんなと一緒に活動できる。

○友達とつながって動くことができる。

○みんなの中で、力を発揮して踊ることができる。

##### (ア) パネルシアター(2つ)

教材の選択にあたり、本児が見慣れたもの、11月ということで秋を感じるもの、雰囲気が違うも

のということを留意し、「秋のかばん」と「かきのきマン」の2つを演じることにした。

小学校の児童の中で、パネルシアターを見たことがあるのは半分よりやや少ないくらいだった。

本児も、パネルシアターは注目することができる。

「秋のかばん」は、全員が注目して見る事ができた。「かきのきマン」では、全員に手拍子をするように促すと、たくさんの手拍子が返ってきた。本児も楽しい雰囲気を感じて手拍子をしていた。

#### (イ) ジャンケン列車

本児は、手指でグー・チョキ・パーをすることはできるが、相手とジャンケンができるかは分からないところがあった。そこで、ジャンケンがうまくいかなかった時に備え、ジャンケンさいころを用意した。

音楽が鳴っている間、ゆっくりではあるが歩いていた。ジャンケン1回目で負けてしまったが、さいころを使わずにジャンケンをすることができた。その後は、最後まで列を離れずに友達とつながることもできた。後ろに友達がつながっても嫌がる様子ではなかった。列車が1本になったら、小学校の友達が学習した「3年とうげ」の歌を歌って数周歩いたが、本児を含め全員が楽しそうな様子だった。

#### (ウ) みんなで踊ろう

曲は「ドラえもん音頭」で、本児が10月の体育会で踊ったものを選んだ。

はじめに、本児と担任が前で踊って見せたが、緊張することなく友達に分かりやすいように踊ることができた。友達も本児が踊っている姿をとめて注目していた。

踊りを教えた後は、4人前後の8グループに分かれ、各グループフープをつかんで踊った。小学校の子どもたちは踊りをすぐに覚え、活発に踊っていた。本児も1つのグループに入ったが、その中でも体をよく動かして踊ることができ、表情も楽しそうだった。

この場面では、本児が教える場面を設定したこ

と、踊りが簡単だったことがあり、お互いに取り組みやすく楽しい活動になったのではと思われる。

#### (エ) おはなし

特別支援学校の児童がどんな学習をしているのか、小学校と共通した内容を話すことにした。小学3年生という段階を踏まえ、「あいさつ」「自分でする」「仕事をがんばる」の3つの柱で話すことにした。より分かりやすいように、本児が実際に活動している写真を掲示物に使ったり、色分けをして視覚的に工夫をしたりした。

全員が話を注目して聴いていた。本児の両隣の児童が手をつないで聴いている姿も見られた。後から感想を聞くと、「こんなことができて驚いた」「同じ勉強もしているんだ」などの声があった。

#### (5) 実践の成果と課題

##### ①成果

○ 全体を通してほほねらい通りの姿を引き出すことができた。授業の前に昼休み・清掃でも交流を図ることで、お互いに次第に慣れていったのが大きかったと考えられる。

○ 本児が、自分の力を存分に発揮しながら活動することができた。日ごろ慣れ親しんだり、経験したりしたことのある活動を多く取り入れたことで見通しが持ちやすくなり、安心感が出たのがよかったのではと思われる。

○ 子どもたち同士が関わり合う場面をたくさん引き出すことができた。本児に雑巾絞りを教えたり、踊りを注目して覚えたりとお互いに教え合う姿が出てきたのはよかったと思う。

##### ②課題

○ 評価表を実際につけてみたが、それほど長時間はかからなかった。しかし、1回しか実践がなかったことで、様子やできたことの記録に留まってしまい、難しさを感じた。次の交流があれば、以前の交流の時の姿と比較することで、成長したり伸びたりした点や課題が明確になると考えられる。

## 事例2

知的障がい特別支援学校 小学部 1年生

交流 音楽

指導略案

| 居住地校交流 学習指導案                                                            |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| T1 特別支援学校担任<br>T2 交流校担任                                                 |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 1. 単元名 「B 小学校の友達と仲良くなろう」                                                |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 2. 日時 1月26日(火) 2校時                                                      |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 3. 場所 B 小学校 1年3組教室                                                      |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 4. 目標<br>○教師や友達と一緒に音楽の学習に楽しく参加することができる<br>○自分から進んで交流校の教師や友達と触れ合うことができる。 |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 5. 展開                                                                   |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 学習活動                                                                    | 活動内容                                                                   | 指導上の留意点・配慮事項                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1. はじめのあいさつ                                                             | ○始めの挨拶を行う<br>○今日の学習の流れを知る                                              | OT1の号令にあわせて挨拶をし、始まりを意識する。<br>○活動の流れや内容が分かるように、黒板にカードを貼って示す。<br>○児童の緊張をほぐし、楽しい気分で学習に取り組めるように、事前に何度か行って親しみを持っているパネルシアターを見せる。<br>○様子を見て言葉かけをしながら、児童が自分から取り組めるよう促していく。他の児童もパネルを貼るよう言葉かけをする。<br>○児童が自信を持って取り組めるように、事前に何度か行った手遊び歌をする。<br>OT1からT2へ、友達へと無理なく相手を代えてジャンケンを楽しめるよう言葉かけをする。 |
| 2. パネルシアター                                                              | *「北風小僧の巻太郎」<br>○見る○歌う<br>○手拍子を打つ<br>○簡単な振り付けで踊る<br>○パネルを貼る             | ○児童が自信を持って取り組めるように、事前に何度か行った楽器遊びをする。<br>○お互いの様子が伝わるように、前にでて一緒に楽器遊びをする。<br>○聞き取りやすいよう、2～4の活動については、音源を児童の右側に設ける。<br>○事前に何度か曲を聞かせておく。<br>○友達の様子を見ながら真似したり、自由に踊ったりしていいことを知らせる。                                                                                                     |
| 3. 手遊び歌                                                                 | *「やきいもぐーちーばー」<br>○教師の模倣をする<br>○教師とジャンケンをする<br>○友達とジャンケンをする             | ○児童が自信を持って取り組めるように、事前に何度か行った楽器遊びをする。<br>○お互いの様子が伝わるように、前にでて一緒に楽器遊びをする。<br>○聞き取りやすいよう、2～4の活動については、音源を児童の右側に設ける。<br>○事前に何度か曲を聞かせておく。<br>○友達の様子を見ながら真似したり、自由に踊ったりしていいことを知らせる。                                                                                                     |
| 4. 楽器遊び                                                                 | *「きらきらぼし」ハンドベル<br>○教師の合図を見て鳴らす<br>*「カスタネット」カスタネット<br>○曲にあわせてカスタネットを鳴らす | ○児童が自信を持って取り組めるように、事前に何度か行った楽器遊びをする。<br>○お互いの様子が伝わるように、前にでて一緒に楽器遊びをする。<br>○聞き取りやすいよう、2～4の活動については、音源を児童の右側に設ける。<br>○事前に何度か曲を聞かせておく。<br>○友達の様子を見ながら真似したり、自由に踊ったりしていいことを知らせる。                                                                                                     |
| 5. ダンス                                                                  | ○友達と共に前に出て鳴らす<br>*「ヤッケーマン」<br>○曲を聴いて、友達と一緒に踊る。                         | ○児童が自信を持って取り組めるように、事前に何度か行った楽器遊びをする。<br>○お互いの様子が伝わるように、前にでて一緒に楽器遊びをする。<br>○聞き取りやすいよう、2～4の活動については、音源を児童の右側に設ける。<br>○事前に何度か曲を聞かせておく。<br>○友達の様子を見ながら真似したり、自由に踊ったりしていいことを知らせる。                                                                                                     |
| 6. ビデオを観る。                                                              | ○本児の学校での様子を撮ったビデオを観る。                                                  | ○清掃、ランニング、給食当番など本児が頑張っている様子を伝える。<br>OT2の号令に合わせて挨拶をし、活動の終わりを知らせる。                                                                                                                                                                                                               |
| 7. 終わりのあいさつ                                                             |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |

## (1) 単元の内容・目標

本単元では、1学期の反省をふまえ教師や友達と一緒に学習に参加できることを第一のねらいとしている。緊張感をなくし落ち着いて学習に取り組めるよう、本児が普段から行っている学習内容を中心に1時間の学習過程を組み立て、担任が主に授業を進行する。本児が好きなパネルシアターで学習への集中を図り、何度も練習して自信を持っている手遊び歌や楽器遊びを取り入れる。また交流校の児童が練習しているダンスを一緒に行うことで、お互いの学習の交流も行う。最後に本児の普段の学校での様子をビデオで紹介し、頑張っている姿を紹介する。このような交流の中で、本児が少しでも自分から進んで交流校の教師や友達と触れ合うことができればと考える。

## (2) 単元に関する児童の実態

- 交流校に副籍があり入学式に参加している。兄弟兄の在籍はない。
- 難聴（右耳に補聴器）のため視覚による支援に工夫が必要である。
- 子ども同士では自分の思いを上手に相手に伝えることができずうまく交流できない場面が見られる。

## 居住地校交流 評価表

1年 組 児童氏名 ( ) 担任 ( )

- ・ 交流校 B 小学校 先生
- ・ 日時 1月26日(火) 2校時
- ・ 場所 B 小学校 1の3教室
- ・ 単元名 「小学校の友達となかよくなろう (音楽)」

|                | 学習の流れ    | 個人目標                                 | 評価 | 特記事項                                           |
|----------------|----------|--------------------------------------|----|------------------------------------------------|
| 小学校の友達となかよくなろう | 教室に入る    | ・ 教室に入り、着席して、はじまりのあいさつをすることができる。     | ○  | 促されると、興味津々といった感じで教室に入り、挨拶することができた。             |
|                | はじめのあいさつ | ・ 曲を聴いて、リズムをとったり、歌ったり、パネルをはったりできる。   | ◎  | 手拍子を打ったり、歌ったり、進んでパネルを貼ったりできた。                  |
|                | パネルシアター  | ・ 相手校の先生や友達と手遊び歌（ジャンケン）で遊ぶことができる。    | ◎  | ジャンケンができるようになったばかりだが、友達がタイミングを合わせてくれて楽しくできた。   |
|                | 手遊び歌     | ・ 前に出て、友達と一緒にハンドベルやカスタネットを鳴らすことができる。 | ◎  | 何度も練習していた楽器遊びなので、自信を持ってみんなの前に出て鳴らすことができた。      |
|                | 楽器遊び     | ・ 友達と一緒にダンスを踊って楽しむことができる。            | △  | 踊りを覚えていなかったため、暫くはマイクを持って歌っていたが、曲が長くて途中集中が途切れた。 |
|                | ダンス      |                                      |    |                                                |

評価基準：◎自分からできた、あるいは友達に促されるとできた。 ○先生から促されてできた。 △できなかった。

| 指導評価         | 特記事項                                      |
|--------------|-------------------------------------------|
| 個人目標は適切だったか。 | ○ 場所、参加人数等、前回と状況が異なる場面も多かったため、継続して様子を見たい。 |
| 教材教具は適切だったか。 | ◎ 普段の学習で行っていることを取り入れたので自信を持ってできた。         |
| 支援は適切だったか。   | ○ 授業を進行していたので、細かい部分に支援が及ばない部分もあった。        |

評価基準：◎適していた。 ○継続する。 △内容の見直しが必要

### (3)年間計画(学期に1回)

- 1学期 7月8日(水)2時間目 特別活動  
2学期 11月17日(火)2時間目 音楽(中止)  
3学期 1月26日(火)2時間目 音楽

### (4)事前準備・活動の実態

#### ①事前の打合せ

- ・8月後半に電話連絡
- ・9月8日打合せ

場所 B小学校

参加者 本校担任2人, 交流校1年生担任4人(1人欠席), 交流校特別支援学級担任1人

内容 1学期の交流の反省及び2学期の交流計画を行う。指導案をもとに学習の流れ及び準備について打合せる。

- ・11月初めに電話連絡
- ・11月6日打合せ

場所 B小学校1年3組教室

参加者 本校担任1人, 交流校1年生担任5人, 交流校特別支援学級担任1人

内容 ・実際に授業をしながら, 学習内容の共通理解を図る。双方の児童の実態を情報交換しながら確認を行う。机の配置や準備する物等細かい所まで打合せる。

- ・写真・ビデオ撮影

\*2学期は新型インフルエンザの流行により中止となった。

- ・1月8日電話連絡により実施日相談
- ・1月13日電話連絡により実施日決定
- ・1月15日学校連絡便を利用し指導案・連絡事項を送る。
- ・1月25日(前日)電話連絡により最終確認

#### ②児童のニーズに応じた支援

##### ○ 音楽の時間を通して…

自信を持って交流が行えるように, 教科を本児が楽しく参加できている音楽とした。学年に協力を仰ぎ, 交流で行う学習内容を音楽の内容に取り入れることで, 特別な練習時間を設けることなく無理のない実践ができた。また音楽の

時間には本児をできるだけ友達の前に出して演奏させるなど自信を持たせる支援を行った。ダンスで踊る曲も事前に何度か聞かせておき, 親しみを持たせるようにした。

##### ○ 見通しを持たせるために…

交流校の写真やビデオを見せ, もうすぐ交流に行くことを知らせる。交流校の担任の先生のビデオレターも見せ交流が楽しみになるようにする。

##### ○ 場に慣れるために…

・買い物学習や校外学習で, できるだけ初めて会う人ともコミュニケーションが取れるよう場を設定する。(例) 買い物ではレジで支払をし, 店の人と話をする等

・クラスや学年の代表となり, 全校の前で行動する機会を増やす。

・先生のおつかいをして学校にいるいろいろな人と話をする機会を増やす。

### ③交流の様子

#### ア 出会い

前回(1学期)は交流に参加してもあまり楽しめなかった本児なのでスムーズに入室できるか心配したが, 落ち着いていてむしろ興味津々といった感じで教室に入ることができた。

#### イ はじめのあいさつ「ひげじいさん」

本児の学年では音楽の時間, この曲で手遊びをしながら始まる。大勢の前に出て挨拶するのを恥ずかしがるのではと思ったが自分のイスを持ってすんなり前に出てくることができ, 手遊びや挨拶を笑顔で行うことができた。やはり担任がそばにいたりことや, 普段通りの進め方に安心できたのではないかと考える。交流校の児童も「この曲知ってるよ」と言ったり教師の模倣をして手遊びをしたりしながら楽しく学習を始めることができた。

#### ウ パネルシアター「北風小僧の寒太郎」

本児が3学期から歌い始めた曲である。季節感があり, 交流校の児童にも親しみのある曲をと考

えて選曲したが、本児もすぐ曲を覚え「寒太郎」と呼びかけたり振り付けをしたりしながらパネルシアターを見ることができた。交流校の児童も曲を知っている児童が多く手拍子や呼びかけや振り付けをして積極的にパネルシアターを楽しむ姿勢を見せていた。パネルシアターにも「見たことある」「初めて見た」「おおっ」と1年生らしく関心を示していた。パネルを貼る活動には本児と交流校の児童が混じって意欲的に参加できていた。

#### エ 手遊び歌「やきいもグーチャーパー」(じゃんけん遊び)

手遊びの仕方を練習したあと、特別支援学校の教師とみんなでジャンケンをし、2回目は相手を替えてジャンケンをした。本児の隣に座っていた児童が「B君と一緒にしたい」と言ってくれて本児も交流校の友達とのジャンケンに挑戦した。本児は近頃やっとなジャンケンができるようになった所だが、友達が本児のタイミングに合わせて出してくれたので、ジャンケン遊びを楽しむことができた。

#### オ 楽器遊び「きらきらぼし」(ハンドベル) 「カスタネット」(カスタネット)

ハンドベルは11月半ばから練習してミの音を鳴らせるようになっていた。交流校の児童が他の音を鳴らし「きらきら星」の演奏をすることができた。学校で練習した時は鳴らしたり鳴らさなかったりしていた本児だが、交流では教師の合図を見てしっかり鳴らしていた。交流校の児童が頑張っている姿を見てやる気が出たと思われる。カスタネットは2学期中練習を重ねたので自信をもって演奏していた。

#### カ ダンス「ヤッターマン」

交流校の児童が運動会で演じたダンスである。本児には事前に曲を何度か聴かせて親しませていた。いつも学校で持っているマイクを持たせると歌を歌っていたが、曲が長かったため途中で集中が途切れていた。交流校の児童がとても意欲的踊

っているのを見ると、今回は特別支援学校の児童が日頃している学習を中心に授業を組み立てたが、もう少し交流校の児童が日頃している学習を取り入れてもよかったのかも知れないと思った。

#### キ ビデオを観よう

本児が特別支援学校で日頃頑張っている、清掃、ラジオ体操、給食当番の様子を観た。時間がなかったで少ししか見てもらえなかったが、本児の頑張りのもとより教室の様子や学習の様子にも興味を持った児童がいた。「特別支援学校ってどんな所なのかなあ」という思いをもってくれたようだ。B児の肩をたたき「頑張ってるんだね」という感じで顔を覗き込む姿も見られた。

#### ク お別れ

終わりの挨拶が済み、自分から本児に挨拶をしに來たり握手やタッチを求めに來たりする児童がたくさんいた。本児も恥ずかしがることなく笑顔で握手やタッチをしていた。

### (5) 成果と課題

#### ① 成果

○ 本児が普段から行っている学習内容を中心に1時間の学習過程を組み立て、担任が主に授業を進行したことで、落ち着いて笑顔で交流に参加することができた。

○ 評価表を作ることで、児童のニーズに合った活動になっているかの検証につながった。交流校の担任とも児童のニーズという観点で学習内容について話をすることができた。交流校の担任の先生方と話をすることがいつもより多く持てたことがとても有意義だった。

#### ② 課題

○ 今回は、特別支援学校の児童のニーズに合った内容で授業を計画したが、双方の児童のニーズに合う活動にするためには、両校の児童の実態や興味・関心について十分に情報交換をしたり、単元の目標の設定について話し合いをしたりする時間をしっかり確保する必要がある。

### 事例3

知的障がい特別支援学校 小学部 3年生

#### 指導略案

| 居住地校交流 学習指導案                  |                                       |                               |
|-------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|
| 指導者 T1 特別支援学級 担任<br>T2 交流校 担任 |                                       |                               |
| 1. 単元名 「3年1組の友だちと音楽を楽しもう」     |                                       |                               |
| 2. 日時 2009年10月30日(金) 2校時      |                                       |                               |
| 3. 場所 小学校 音楽室                 |                                       |                               |
| 4. 目標                         |                                       |                               |
| ○ 友達と一緒に活動に参加し、活動を楽しむことができる。  |                                       |                               |
| ○ 活動のなかで自分ができることを進んで行う。       |                                       |                               |
| 5. 展開                         |                                       |                               |
| 学習活動                          | 活動内容                                  | 指導上の留意点                       |
| ①はじめのあいさつ                     | ○日直(できれば本児と一緒に)はじめのあいさつをする。           | ○あいさつの言葉を事前に聞き、支援学校で事前に練習をする。 |
| ② 学習の予定                       | ○本日の学習の流れを知る。                         | ○黒板の流れをみて、見通しを持つ。             |
| ③ ダンス                         | ○簡単に練習した後、「エビカニックス」の曲に合わせて自分の席の場所を踊る。 | ○人数が多いのでけがをしないように注意する。        |
| ④ 手遊び                         | ○「手をたたきましょう」の曲に合わせて自分の席の場所を踊る。        |                               |
| ⑤ ハンドベル                       | ○「かえるのうた」グループに分かれ、ハンドベルで演奏するなかでベルを振る。 | ○一人一音を担当し、みんなで演奏するなかでベルを振る。   |
| ⑥歌                            | ○歌「みんななかま」を聞く。                        | ○友達の歌をさく。                     |
| ⑦パネルシアター                      | ○「ねこのお医者さん」パネルシアターをみる。                | ○見えやすい位置にそれぞれの児童が移動する。        |
| ⑧おわりのあいさつ                     | ○日直(できれば本児と一緒に)おわりのあいさつをする。           | ○あいさつの言葉を事前に聞き、支援学校で事前に練習をする。 |

### (1) 単元の内容・目標

今年度は学期に一度の交流で、1学期は初めての内容や久しぶりの交流で緊張し、動きや表情がかたくなっていた。そこで、2学期の交流では本児が普段特別支援学校の授業の中で行っている内容を行い、緊張せずに自ら楽しんで活動し取り組めるものを中心に行うこととした。

また、小学校の児童には特別支援学校の授業の様子や本児の活動の取組を知ってもらい本児とともに活動すること、本児は自ら活動し活動を友だちとともに楽しむことをねらいとしている。

### (2) 単元に対する児童の実態

- 慣れない場所や大勢の人がいる場所、はじめての活動で緊張すると、表情や動きがかたくなる。慣れるのに少し時間がかかる。
- 多少の言語理解はあるが、自分の欲しいものややりたいことがあると、そこに集中して全体の活動が見通せなくなる。
- 簡単な身体模倣や打楽器で音を出すことはできる。
- 日常生活や日常の授業の中でも音楽を好み、積極的に参加することが多い。
- 支援学校では大人を頼りにすることが多い。

### 居住地校交流評価表

交流相手校 小学校 担任 先生  
日時 10月30日(金) 2時間目  
場所 小学校 音楽  
単元名 「音楽を楽しもう(音楽)」

|        | 学習の流れ          | 個人目標               | 評価 | 特記事項              |
|--------|----------------|--------------------|----|-------------------|
| 音楽を楽しむ | はじめのあいさつ       | ・「れい」をすることができる。    | ○  |                   |
|        | ダンス「エビカニックス」   | ・体を動かすことができる。      | ○  | 緊張しながらもおどっていた。    |
|        | 手遊び「手をたたきましょう」 | ・手足を動かすことができる。     | ○  | 緊張しながらもできた。       |
|        | ハンドベル          | ・ハンドベルを鳴らすことができる。  | ○  |                   |
|        | 歌              | ・座って鑑賞ができる。        | ◎  | 初めてだが立ち上がって一緒にいた。 |
|        | パネルシアター        | ・ボードに注目してみることができる。 | ◎  |                   |
|        | おわりのあいさつ       | ・「れい」をすることができる。    | ○  |                   |

評価基準：◎ 自分からできた、あるいは友達に促されるとできた。○ 教員から促されてできた。△ できなかった。

| 指導評価         | 特記事項                            |
|--------------|---------------------------------|
| 個人目標は適切だったか。 | ○ 全体を通して児童の実態にあっていた。            |
| 教材教具は適切だったか。 | ◎ 児童が慣れているもので自発的な活動が多くよかった。     |
| 支援は適切だったか。   | △ 小学校の児童に本児に対する関わり方を話しておくべきだった。 |

評価基準：◎ 適していた。○ 継続する。△ 内容の見直しが必要。

### (3) 年間計画

|     |           |      |    |
|-----|-----------|------|----|
| 1学期 | 7月 6日(月)  | 1時間目 | 音楽 |
| 2学期 | 10月30日(金) | 2時間目 | 音楽 |
| 3学期 | 2月        | 中旬予定 |    |
|     | 3月        | 上旬予定 |    |

### (4) 事前の準備・活動の実際

#### ① 事前の打合せ

9月

- ・電話での打合せ
- ・交流校を訪問して内容の打合せ
- ・授業内容決定

10月

- ・電話・FAXで打合せ
- ・交流校を訪問し、授業内容・使用教室・楽器などの打合せ
- ・交流(10/30)
- ・感想文が届く

#### ② 児童のニーズに応じた支援

小学校側に対して・・・

1学期はこれまでの交流のように本児が交流学級の授業にそのまま参加する形態をとった。その際、久しぶりの交流ということや、あまり触れたことのないリコーダーや歌など慣れないことに緊張する本児にとって難しい部分があった。

そこで2学期は担任同士の打ち合わせで、

- ・前回同様本児の好きな音楽の授業を行う。
- ・特別支援学級の音楽の授業をたくさん取り入れる。
- ・特別支援学校の教師が特別支援学校で行っている授業も行う。

という形で、授業を行うこととした。

特別支援学校側で・・・

本児は特別支援学校の週に1度の音楽の授業でも曲に慣れるまでに1ヶ月くらいかかる。そこで交流まで毎週交流の時とほぼ同じ内容で音楽の授業を行い内容に慣れ、自分らしく活動できるように取り組んだ。

### ③交流の様子

#### ア ダンス「エビカニックス」

本児の特別支援学校での音楽は毎回これで始まっている。本児は、毎週これを踊っておりなじみがある。全員が椅子から立ちあがり、踊ることにより体をほぐすところから本児をはじめ全員の緊張感をなくし、リラックスした状態になるようにと考えた。

この交流のあと、エビの手袋や手袋全般を嫌がっていた本児が、自分で進んでエビの手袋をするようになった。この交流が、本児に楽しかった思い出となり、そのような変化に影響していると思われる。

#### イ 手遊び「手をたたきましょう」

前に出て一緒に参加する児童を募ったところ、すぐに手をあげ、本児と一緒に前に出て行く児童がいた。席から前に出るときや席に戻るときには自然に本児に声をかけたり、そっと移動を促したりする友達がいた。本児はいつものとおり部分的に自分ができるところの手遊びを行った。

交流校の児童達は恥ずかしがりながらも、楽しそうに手足を動かしており、またそれを席に座って見て一緒に行っている児童も温かく見ていたり、楽しみながら見ていたり楽しい交流が進んでいた。

#### ウ ハンドベル「かえるのうた」

交流校の児童が、本児に優しく前に出ることを促したり、音を出すタイミングを知らせたりする場面が見られた。また、本児が一人だけ「レ」の音を選んだところ、交流校の児童の中に本児と同じ音のハンドベルを意識して持ち換え、一緒に行おうとする場面もみられた。また友達同士でも優しく教えあっている場面がみられた。

交流を通してその場にいる児童が、和やかな雰囲気のもと友達同士で関わり合っていたことが印象的であった。

## エ 交流学級のテーマソング

### 「みんななかま」

本児にとっては1学期に1度聴いて以来の歌だったが、促され一緒に席を立ち、踊っている様子を見て自ら一緒に手足を動かし踊っている場面が見られた。本児は普段の授業の中で、新しい曲に変わると緊張しじっとみていることが多い。しかし今回は周りの児童達の様子を見て、自分から積極的に踊って動いていた。大人を頼ることが多い本児が自分で考え子ども同士の関わりの中で積極的だった場面である。

## オ パネルシアター「ねこのお医者さん」

児童達は席に座り、話を見たり聞いたり一緒に歌ったりしていた。毎週音楽の時間の最後はパネルシアターを行っており本児は慣れた様子で、人形の動きを楽しんでいた。

またテーマ曲が何度も流れてくる話で、交流校の児童も初めてながら一緒に歌ってくれたので全体的に楽しい雰囲気となっていた。

## カ お別れ

別れ際には、全員の児童と握手やハイタッチなどをして別れたが、その際教師が促さずとも児童の口から「またね。」「ばいばい。」「またきてね」など数々の言葉を聞くことができた。

〈交流校の児童の感想から〉一抜粋一

- ・Cくん（本児）は「エビカニックス」（ダンス）がうまいなあと思いました。
- ・Cくんはハンドベルで音をならそうとしていたがなかなかでなくて友達にたすけられていました。
- ・「みんななかま」を歌ったときに、Cくんがうれしそうだったし、楽しそうだったからよかった。
- ・うれしかったことは「みんななかま」（クラスの歌）をCくんがいっしょにおどってくれたことです。
- ・今日、一人でやるよりみんなでやった方が楽しいとおもいました。

- ・「Cくん おうちにも遊びにいくね。」
- ・また来てくれたときは同じはんで一緒に遊びたいです。 等があった。

3学期 今回交流していない他2クラスと交流それぞれ交流予定。

## (5) 成果と課題

### ①成果

- 交流としては、本児や交流校の児童の自発的な活動や子ども達同士の関わり場面がいくつも見られてよかった。
- 今回交流を行っていない他2クラスの児童から「自分たちも交流を行いたい。」という声があったので、3学期に行うことになった。児童からの自発的に広がる交流希望の気持ちを大切にしていきたい。
- 評価表を作成することで授業内容を考えるときに児童のニーズにあっているか ということを考えることができた。
- 小学校と特別支援学校の時間割の違いなど教師間で連絡を取り合ったり、話し合いの時間をとったりすることが大変であったが、電話連絡やFAXなどを利用し、時間を有効に使い、児童や授業について話がたくさんできたことがよかった。

### ②課題

- 授業中ということや時間の短さから関われない児童がいて残念がっている児童もいた。給食時間や休み時間なども含め子ども同士が自由に関わり合える交流内容などを工夫していきたい。
- 今回の評価表をもとに次回の交流内容を決めるときの資料としていきたいと考えるが、まだまだ評価表はより使いやすくわかりやすいものにするために今後も検討していきたい。

## Ⅸ 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- 評価表をもとにした交流授業を行った結果、交流校と連絡する機会が増え、今までより詳しく情報交換をすることができた。それによって、教科や役割分担など打合せを密にすることができ、連携が高まったと思われる。
- 交流及び共同学習において、児童のニーズに合った授業とはどういうものかを考えていく中で、評価表を作成し、特別支援学校の担任が通常の学級でゲストティーチャーになって授業をする形態をとった。そのことで、特別支援学校の児童の自発的な活動や、子ども同士の関わり場面が多く見られた。
- 今回の交流では、特別支援学校の担任がゲストティーチャーとして授業をする際、特別支援学校で使うパネルシアター等の教材教具を使用したことは、特別支援学校の児童には安心感、通常の学級の児童には新鮮さを与えることができた。

### 2 研究の課題

- 今後の課題としては、評価表の工夫が挙げられる。特別支援学校の児童と通常の学級の児童の交流及び共同学習のねらいや、教育課程上の位置づけが明確になるよう工夫することが必要である。
- ふれあう活動から学び合う活動へより発展的な交流を行うため、年間を見通した事前打合せを行うことが必要である。次の交流までに評価表を生かしづらい点が挙げられる。  
また、評価表については、授業内容を考える上ではよかったが、本人の実態により即した記録になるためには、まだ検討の余地があると考えられる。

## <引用・参考文献>

- ・「発達」No. 119  
「交流及び共同学習」の意義と内容 徳永 豊  
ミネルヴァ書房
- ・文部科学省  
「特別支援教育」平成19年No. 25  
交流及び共同学習の経緯と背景 太田俊己  
交流及び共同学習の現状と課題 久保田茂樹  
東洋館出版社
- ・全国特別支援教育推進連盟(文部科学省委嘱)  
よりよい理解のために  
交流及び共同学習事例集  
ジアース教育新社

## 研究指導者

大川市教育委員会

指導主事 川上 匡彦

福岡市発達教育センター

研修係長 向江 勇二

主任指導主事 小崎 俊司

